

新研究テーマの紹介

令和5年度下水道温室効果ガス削減推進モデル事業に関する研究

資源循環研究部 総括主任研究員
石田 健



1 研究の背景

国は2050年カーボンニュートラルを目指すことを宣言するとともに、2030年度に温室効果ガスを2013年度から46%削減することを目指し、さらに50%削減の高みに向けて挑戦を続けることとしています。下水道ではデジタルトランスフォーメーション（DX）を通じた施設管理の高度化・効率化を図るとともに、省エネルギー設備の導入、太陽光や下水熱などの再生可能エネルギーの導入等を推進、また、下水汚泥由来の固形燃料や消化ガス発電など、下水道バイオマスを有効活用した創エネルギーの取り組みを推進することとしています。

2 研究の目的

本研究は、モデル都市・地域の下水処理場を対象としたエネルギー消費分析、省エネルギー対策の実施支援、ならびに脱炭素化の推進と持続可能性の向上に資することを目的とします。

3 研究の内容

都市規模や既存の下水道施設等を考慮して、モデル都市またはモデル地域における8件の下水処理場において、省エネの推進に向けたエネルギー消費量の分析と具体的な対策の検討を行い、創エネ・再エネ活用を含めた脱炭素化方策の早期の事業化に向けた基本構想およびロードマップの策定を支援します。

4 研究体制

4.1 研究体制

(公財)日本下水道新技術機構、日本下水道事業団の共同研究

4.2 研究期間

令和5年4月～令和6年3月

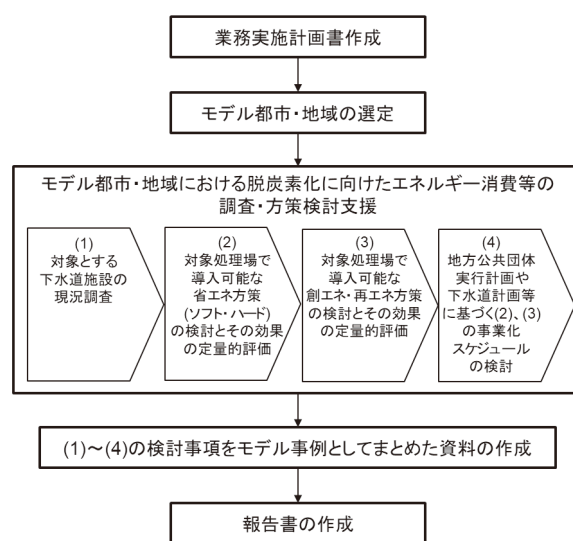


図 本研究のフロー